



# まなざし



6月号

## 熱く燃えた体育祭から日常へ

渡辺 隆正

八百津中学校最大行事の一つ『体育祭』が終わりました。例年秋に行っていましたが、熱中症対策等のため、5月に移動して実施いたしました。当日は朝から好天に恵まれ、多少暑くなりましたが、秋開催よりも安全に実施することができました。ご理解、ご協力ありがとうございました。

開会式では、4名の団長・副団長による力強い選手宣誓が行われました。そこでは、団員の士気を高め、勝利にかける決意だけでなく、体育祭開催に至るまでの周りの人の支えに対する感謝の言葉が語られました。体育祭ができることを当たり前のこととしてとらえるのではなく、そこにはいろいろな人の支えがあることを忘れないでいることを、とてもうれしく思いました。そして、感謝の気持ちを姿で示すことを高らかに宣言した生徒たちは、宣言通り、素晴らしい姿を随所に見せました。最後の最後まで全力を尽くす生徒たちの姿に、胸が熱くなる素晴らしい1日でした。



- いどむ** どの学級も勝利やこれまでの最高記録達成に精一杯挑みました。特に、3年生の「チームジャンプ（大縄跳び）」では、1100回という途方もない記録を打ち立てました。40分近く跳び続け、健康を考え途中で打ち切らざるを得ませんでした。自分たちの限界に挑戦する姿は見る者の心を熱くしました。
- やりぬく** 自分の出番に全力を尽くし、最後までやり抜く姿がありました。「タイムトライアル（リレー）」では、転んだりバトンを落としたりすることもありましたが、最後まで誰もが全力で頑張りました。どの係も動きがきびきびしており、自分の仕事に責任をもってやり抜きました。そうした系の動きがスムーズな運営につながりました。
- 思いやる** 競技する仲間に必死で声をかける姿、勝者にも敗者にも送られる温かい拍手など、仲間を大切にしていることがよく伝わってきました。学級解団式や次の日の反省でも、仲間の頑張りから学んだことを互いに伝え合っていました。良さや頑張り認め合うあたたかい人間関係づくりは、学校生活の大切な基盤となっています。

さて、今日から6月が始まりました。『体育祭』への取組を通して明らかになった成果と課題をもとに、どの学級も新たな歩み出しが始まります。行事を日常につなげ、じっくりとした取組を通して、個人として、学級として、さらなる高みを目指して着実に歩いていくことを期待しています。

- 『いどむ』 →意欲的な授業づくり、中体連への取組  
どんな授業をつくりあげ、どんな大会結果を望みますか。  
願う姿、そしてその達成のための方法を明らかにして、目標達成に挑もう。
- 『やりぬく』 →期末テストへの取組  
目標を定め、計画をきちんと立て、着実に実践していこう。  
1年生は初めての期末テスト。効果的な勉強の仕方を身につけよう。
- 『思いやる』 →ひびきあい集会に向けた取組（安心安全宣言）  
誰もが安心して自分らしさを発揮できる学級・学校にしよう。  
そのためにどんなことに取り組んでいきますか。